

2007年11月刊行

# 国宝 六道絵

The Six Realms Paintings in Shōjuraigōji Temple

泉武夫／加須屋誠／山本聡美 編・著

金井杜道 撮影

滋賀県大津市聖衆来迎寺に伝わる国宝六道絵十五幅、その全てを大判のカラー図版で掲載。三名の研究者による「伝来と研究史」「技法と表現」「図様と位置づけ」に関する論文に加え、詳細な全場面解説、軸木に残された銘文や『六道繪相畧縁起』『往生要集』など関係資料の翻刻を収録した、美術史だけでなく仏教史・中世史・国文学においても重要な第一級絵画史料研究の決定版。

中央公論美術出版

## 図版 六道絵

1. 等活地獄幅
2. 黒繩地獄幅
3. 衆合地獄幅
4. 阿鼻地獄幅
5. 餓鬼道幅
6. 畜生道幅
7. 阿修羅道幅
8. 人道不浄相幅
9. 人道苦相I幅
10. 人道苦相II幅
11. 人道無常相幅
12. 天道幅
13. 譬喩経所説念仏功德幅
14. 優婆塞戒経所説念仏功德幅
15. 閻魔王庁幅

色紙形写真 絹目拡大写真

〈参考図版〉 模本「六道絵」

〈参考図版〉 フリーア美術館所蔵「畜生道幅」・「天道幅」

## 論 考

〈伝来と研究史〉 国宝「六道絵」の修復と移動

山本 聡美

〈技法と表現〉 六道絵の作風と絵師の分類

泉 武夫

〈図様と位置づけ〉 往生要集絵の成立と展開

加須屋 誠

## 全場面解説

加須屋 誠

## 資 料

1. 『六道絵旧軸木修理銘』
2. 『六道繪像修覆記』
3. 『六道繪相畧縁起』
4. 『来迎寺要書』
5. 『来迎寺年代記』
6. 『往生要集』
7. 『仏説地蔵菩薩発心因縁十王経』
8. 『摩訶止観』
9. 『二水記』
10. 『古画備考』
11. 『考古画譜』
12. 『四明餘霞』
13. 『史学普及雑誌』

文献目録

〈英文概説〉

The Six Realms Paintings in Shojuraigoji Temple: An Introduction Yukio Lippit

〈仏文概説〉

A propos des Images des Six Destinées (Rokudō-e) du temple Shojuraigoji:

Une introduction

Laure Schwartz-Arenales

## 聖衆来迎寺本・国宝六道絵（十五幅）

現在、滋賀県聖衆来迎寺（天台宗）に所蔵される国宝「六道絵」は、恵心僧都源信が寛和元年（九八五）に著した『往生要集』を主な典拠とし、六道（十二幅）と念仏功德の説話（二幅）そして閻魔王庁（一幅）が表されている。いずれの幅も縦一五五・五cm×横六八・〇cmで、大画面による全十五幅の構成は圧巻。制作時期に関して、先行研究においては十三世紀のいずれかの時期と目されてきたが、やまと絵と宋画の要素が渾然と融合した描法、または十五幅一具の大画面六道絵という構成と画面内容において比較作例にとぼしく、未だ定説をみない。本書では、後掲の伝来・図様・様式に関する論考を通じ、制作時期に関しては十三世紀後半と位置付けた。

## 六道と『往生要集』

六道とは、衆生が輪廻転生をくり返す「地獄」「餓鬼」「畜生」「阿修羅」「人」「天」の六つの世界。末法思想、無常観が強まった一〇世紀、恵心僧都源信（九四二―一〇一七）が極楽浄土信仰を鼓舞する目的で、寛和元年（九八五）に様々な経論より撰述した教学書『往生要集』を著した。平安から鎌倉時代にかけて広く読まれ、信仰上だけでなく、文学・美術のうえにも影響を与えた。源信はこの忌むべき世界を解脱し、浄土へと転生することを勧めている。

ここに挙げた人道不浄相幅（中央部分）画面では、死屍の不浄のみが九相図の表現で描かれている。九相図とは欲心を断つために、朽ちゆく死屍を九つの段階に分けて観相する九相観に基づく図像である。『往生要集』における該当箇所の記事は簡略で、本幅に描かれるのは、同書が出典としてあげる『摩訶止観』の説く「不壊法の九相観」に則った表現である。

〔編著者略歴〕

泉 武夫（いずみ・たけお）

東北大学文学研究科教授。著書に『国宝釈迦金棺出現図』（京都国立博物館、一九九二年）、『仏画の造形』（吉川弘文館、一九九五年）など。

加須屋 誠（かすや・まこと）

奈良女子大学文学部准教授。著書に『美術史と他者』（共編著、晃洋書房、二〇〇〇年）、『仏教説話画の構造と機能』（中央公論美術出版、二〇〇三年）など。

山本 聡美（やまもと・さとみ）

大分県立芸術文化短期大学国際文化学科専任講師。論文に「聖衆来迎寺所蔵『六道絵』の修復と移動」（『美術史』一五六号、二〇〇四年）など。

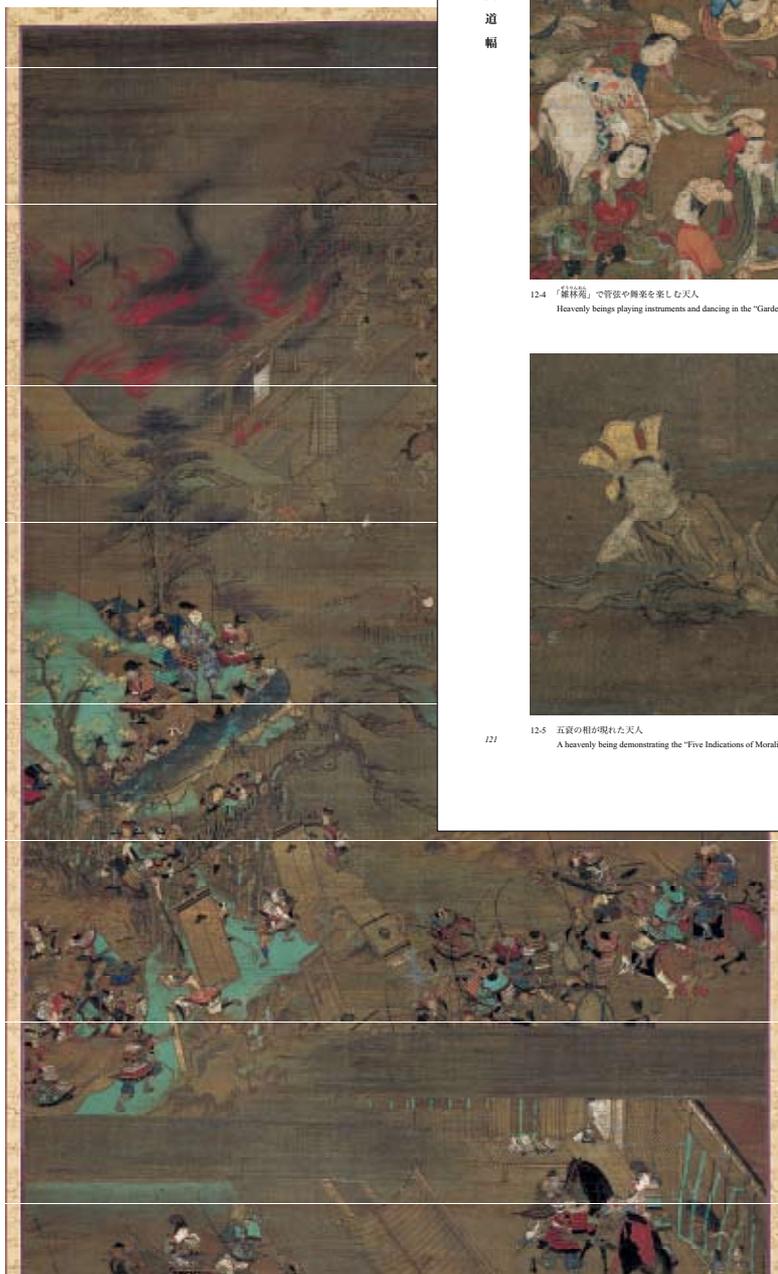
〔撮影者略歴〕

金井 杜道（かない・もりお）

写真家、京都国立博物館名誉館員。撮影に携わった書籍に『王朝の仏画と儀礼』（至文堂、二〇〇〇年）、『若冲大全』（小学館、二〇〇二年）など。

①

10. 人道苦相II幅



12  
天道  
幅

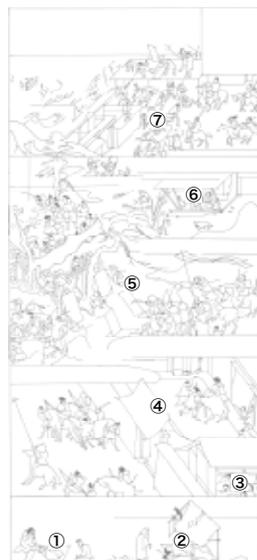


②

12.4 『雑林苑』で管弦や舞楽を楽しむ天人  
Heavenly beings playing instruments and dancing in the "Garden of Miscellaneous Trees" (Zōrin'en)



12.5 五賢の相が現れた天人  
A heavenly being demonstrating the "Five Indications of Morality" (gōsu)



『国宝 六道絵』組見本

国宝の細部まで見えるように、高精細に刷り上げた。精緻に描き込まれた国宝全十五幅を大判カラーで参照できるのは、本書が本邦初となる。

- ① **【図版六道絵】** 本作の全図には見開きで解説を読めるように配置、さらにトレース図を付した。
- ② **【図版六道絵】** 各幅主要な図様の部分図を掲載、英文でのキャプションも付した。
- ③ **【図版六道絵】** 江戸期模本には、図中に記された短冊形の文言を欄外に翻刻した。
- ④ **【全場面解説】** 各幅それぞれを百三十の場面に分け、解説と該当部分の図版を掲載。
- ⑤ **【論考】** 詳細な註を付し、資料図版を掲載し内容の充実を図った。
- ⑥ **【資料】** 本作品に関連する一次資料を収集、原典に忠実に復刻した。
- ⑦ **【英文概説・仏文概説】** 本書の要約というだけでなく、本作品を広く世界へ紹介するひとつの独立した論考でもある。



■二〇〇七年十一月刊行

B4判上製函入 カラー口絵一七六ページ 本文二〇四ページ

定価三七、八〇〇円(本体三六、〇〇〇円+税)

ISBN978-4-8055-0556-4



⇐「阿鼻地獄幅」部分・阿鼻地獄は地獄道でも最下層にあたる。

### ■圧倒的な迫力の豊富なカラー図版

図の上部にある色紙形に残された文言の翻刻と、画面内容を紹介する解説を付した全体図に加え、各幅ごとに6ページにわたる見開き図を掲載。絵巻物を超えるほどの豊富な意味内容をもつ本作の細部にまで迫る。

部分図や絹目の拡大図版、また江戸期に写された模本や、同時代の六道絵類本として、鮮明な大型図版のなかったフリーア美術館所蔵の「畜生道幅」「天道幅」も参考資料として解説を付して掲載する。

### ■新知見を盛り込んだ充実の論考

「伝来と研究史」国宝「六道絵」の修復と移動」では、比叡山横川にあった本作品が聖衆来迎寺に移され伝来してきた過程を、修理銘をはじめとする史料をもとに考察するとともに、近現代の美術史学における研究成果を概説した。

「技法と表現」六道絵の作風と絵師の分類」では、これまで論じられることの少なかった画家について、各幅画面の詳細な観察から、二人の手によるものであること、また十五幅における分担など、新たな知見を提示する。

「図様と位置づけ」往生要集絵の成立と展開」では、文献と現存作例を通じてわが国及び大陸の地獄絵・六道絵の展開を辿り、日本・東洋美術史上における聖衆来迎寺本「六道絵」の位置づけを論じた。

### ■作品理解の助けとなる詳細な場面解説と資料類

「全場面解説」において、十五幅に描かれた図様を百三十の場面に分け、ひとつひとつの典拠や図像的伝統を記述、本作理解のみにとどまらず、わが国における仏教理解に通じる幅広い内容となっている。

「資料」において、国宝附の『旧軸木修理銘』や『六道繪相畧縁起』また『往生要集』など、本作に関連する一次資料を収集、復刻掲載した。

巻末に本書の英文概説・仏文概説を掲載。広く世界へと本作の魅力を伝える。

### ■本書をお勧めする方々

美学・美術史、日本思想史、仏教史、国文学などの研究者・研究室

美術館・博物館学芸員、大学・公共図書館

文化財保存・絵画修復関係者、画廊、古美術商、日本画・水墨画画家

寺院関係者と関係機関、表装・表具店、仏具店

「日本絵巻大成」・「国宝」シリーズ購入読者、画集・美術豪華本愛読者

お取扱いは

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7

TEL03-3561-5993 FAX03-3561-5834